

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227

広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781

<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成18年6月（2006年）No.486

余部撮影会 ますますのお天氣で無事終了

今年の一泊撮影会は19名の参加があり盛会でした。初日の6月3日は余部鉄橋を中心に、地元のお年寄りのインタビューも混じえて、心ゆくまで撮影することができました。数少ない列車の運行時間を前田さんが調べて参加者に資料を配布して頂きましたので、それに合わせて撮影ポイントにカメラを据えて撮影できました。列車の来ない時間帯は集落に入って古い民家の屋根越しのカットや鯉のぼりのある鉄橋風景、そして列車の転落事故後に建立された観音像などの撮影に歩きまわり、心持ちよい疲れで宿へ入りました。翌日は早朝から漁港での魚の水揚げ風景やせり市の状況などをじっくりと撮影でき、皆満足の様子でした。朝食後、観光船に乗って海からの余部鉄橋を撮影し、午後現地解散しました。

■撮影会作品公開審査は7月第5土曜29日午後6時より例会場にて
2ヶ月ほどありますので、参加者はどうぞ作品にまとめて当日発表してください。全員の出品を期待しています。

■インタビューテープ配布の件

現地での余部鉄橋にまつわる話題を、地元の余部小学校元校長先生山崎平八さんに前田さんがインタビューし、それをハイビジョン、ワイド、4対3の撮影代表が撮影しました。そのテープをお分けします。ハイビジョン映像テープは関世話役が、ワイド映像テープは吉岡世話役が、4対3映像は合原会長が担当しましたので、担当者からそれぞれダビングテープをおわけします。手渡しで受渡しの人は、テープ代、ダビング手間とも500円を、郵送希望の方は郵送料共700円をそれぞれ例会時に担当者に支払ってください。なお、このインタビューテープを使用する方は必ず画面に山崎平八さんの名前を入れること。編集の際は前田さんの質問は省くかテロップにして山崎さんの声だけにし、他の画面をインサートしてはどうでしょうか。

6月例会のお知らせ

6月例会は第4土曜日24日、午後6時より大阪市立難波市民学習センター（JR難波駅OCATビル4階）にて開催。月1回の楽しい集いにどうぞお集まり下さい。作品もどしどしあ持ちを。

■新入会員のお知らせ

下記の方が新しく入会されました。よろしくお願ひします。
竹内 明さん 電話 06-6474-3939
〒 555-0043 大阪市西淀川区大野 1-10-2
株式会社大進の社長さん、090-5127-3420
E-Mail : akira1st@fancy.ocn.ne.jp

5月例会のレポート

5月例会は30名の大入りと14本の作品で充実した例会でした。司会は合原会長、書記は安居氏、機材、江村、増池、河合の3氏、受付、奥、渡辺の2氏で進めました。

■出席者：石垣、岩井、江村、岡本、上総、奥、紙本、河合、黒田、合原、進藤、玉井、関、鉄具、西井、西村、秦、華岡、前田、増池、松本、宮崎、森口、森、森田、安居、山本、吉岡、渡辺、竹村の30氏（敬称略）

■上映作品（今月の講評は安居世話役）

1. 古都復元

安居利次さん 7分

8年前に復元した朱雀門について奈良の古都平城宮では大極殿の復元工事が行われています。年に1~2回復元の途中経過が公開されます。歴史の好きな筆者は心弾ませていったのですが現場は鉄骨ばかりが目立って話になりません。それで平城宮を舞台に好きな歴史を語ってみようと思いました。しかしうまくできませんでした。人物の名が多く出すぎてややこし、ナレーションが多すぎることでした。やはり、歴史が好きだけではダメですね。ねたは随分整理したつもりだったんですがまだ反省の余地が多いと思います。

2. 花彩祭

渡辺 雄史さん 6分10秒

第23回全国都市緑化おおさかフェアが「花・彩・祭」のネーミングで3月25日から5月28日まで大阪城公園を中心に開催されました。その模様を詳細に撮影されています。西の丸庭園のさくら、散策路にあるポピーや菜の花、それを身近に愛でる人たちの表情がいくつもあって人と花との心の交流がうまく表現されていました。そぞろ歩きに疲れると舞台では琴の演奏、その音にほっとたたずみます。臨場感ある構

成でうまいなと思いました。最初の「流れる映像と気笛」が最後の遊覧汽車型バスのカットで、ああそうだったのかと合点がいきました。遊覧バスのカットがはじめにチョットあった方が、すっきりしたのではないかと思います。

3. メコン河上流編

山本正夢さん 8分30秒

チベット高原に源を発するメコン河が中国の雲南省の山岳地帯を次々に下り、それについてその住む人々の生活が活写されます。ツアーアではなく単身でこんな処を旅される山本さんって改めてすごい人物だと思いました。メコン河の地図を画面に載せてもらっていたので、その地名をたよりに「玉樹、海里雪山、維西、景洪、」なんて読むのか解らないままHPで調べたら小数民族の村として載っていました。特に維西にはキリスト教の教会がたくさんあるのは以外でした。メコン河といえば米の産地という印象しかなかったので、ロープを使って断崖の河を渡ったり女人が急流で網を使って魚を取ったりするのを見てメコンの上流はまだまだ秘境なんだと再認識しました。地図の地点からズームアップのカット技法で次ぎは「ここですよ」と展開して行く方法は、全体像を理解するのに大いに役立ったと思います。下流編が楽しみです。

4. 春が来た

玉井 勺さん 9分20秒

かつての草津川が国道1号やJR東海道線の上を流れる天井川だとは知りませんでした。川底が草津市の路面から5~6mも高かったのですか、「川さらえ」をしてその土を両側に積んでいたら10mを超える堤になって道路や鉄道がもぐったなんて大阪の人間には考えられないことです。でも作者は淡々とした語りでその歴史を話し「天井川がなくなるんやって・・・」と新草津放水川の計画をつたえます。しかも30年経って忘れられたころ、放水川に水が流れます。天井川に水はなくなりますが堤の桜は今年も満開ですとそのカットをゆっくりと流します。時の流れが違う世界にいるようでしかもそれが自然に感じられる玉井映像には、まいりました。「春が来た」というタイトルの意味も単純ではないよう

す。大作です。

5. やつさいほっさい

森 保信さん 9分13秒

「泉州の奇祭」として有名な石津太神社の火渡り神事をお撮りになりました。神事の薪を積み上げる処から撮影されていますが、やはり焼けた薪の上を火煙を立てながらわたる場面がなんといつても迫力があります。神主さんを両脇から抱えて火の中を走るカットや二人で神主さんを担ぎあげて走る映像が神事のメインカットのようです。それはどうやら、石津に漂着されたずぶぬれの「蛭子命」(えびすさん)を火で暖めた故事をもとに、神主さんを蛭子命になぞらえた神事のように思いました。奇祭といわれるだけあって変わった火まつりです。うまくお撮りになっています。ただ祭の始まるまでの部分をもう少し短くした方がよかったですと司会のコメントがありました。

6. 伊予の湯と熱田津(にぎたつ) ワイド

鉄具 嘉夫さん 6分09秒

伊予の湯、つまり今の道後温泉は万葉の昔から名湯として有名でした。あの聖徳太子も謎の青春時代道後温泉で心の病(鬱)を直したという説があります。万葉の歌人達も多くここを訪れ伊予の湯を賞賛しています。作者も道後温泉の古式豊かな建物を見ながら万葉の歌を頭に浮かべ散策されたようです。そして浜に出られました。

「熱田津(にぎたつ)に船乗りせむと月までば…」額田王の万葉集の歌ですね。筆者も万葉集が好きですから作者の考えの中にすぐ解け込みましたが、しかし一般の人たちを万葉の世界に引き込むのはなかなか難しいようです。でも鉄具さんは少しづつその技を身につけてこられたように思います。今回はグットよかったです。作者は万葉の世界に興味をお持ちのようです。普通の人にも理解してもらえるような作品づくりをするよう頑張りましょう。

7. 名水紀行 京の水 ワイド

森口吉正さん 7分22秒

紅葉の名所永源寺は知っています。しかし桑名に通じる愛知(えち)川沿いの八風街道は地図で調べてどのあたりかやっとわかりました。峠道は険しく2トン以上の車

は通れないとか、森口さんは愛車を駆ってこんなところへも行かれるんですね。後で聞いたら車窓からの風景は助手席の奥様の撮影だそうです。このカットによって山奥の名水を尋ねられた臨場感がよくでています。伊勢桑名から峠を上ってきた人がこの名水で乾いた喉を潤し京の都に思いをはせ、誰言うとなく「京の水」と名づけたいきさつが自然と解りました。さすがは森口さんです。名水の現地音の使い方がすばらしいと司会もほめておられました。

8. 仁和寺 ワイド

増池 茂さん 8分

金閣寺、竜安寺の近くにある、仁和寺は世界遺産に登録されています。その堂々たるお寺を入り口の仁王像から丹念に撮されました。さすが真言宗御室派の総本山、境内も広いし建物も重厚です。丁度、桜の季節にいかれたのですね。世界遺産の建築を背景に美しい桜が映えます。増池さんのカットは写真を撮るように一枚一枚完璧ですね。いい構図求めて歩き回り狙って構図を決めシャッターを押す、すごく時間がかかると思います。このエネルギーに感心します。雲行きがわるいと思っていたら後のほうで、雨が降ってきました。普通ならここで撮影をやめて帰るところ作者は、急な雨で参詣客がどう対応するかまで、描写されているのが面白かったです。

9. 大和多武峰譚(とうのみね) ワイド

進藤信男さん 8分20秒

「金の司(つかさ)は、とうのみね」といわれるくらい妙楽寺は金儲けがうまいお寺であったと聞きます。勝運の強いあの藤原の鎌足を祭った寺社ですから当然かもしれません。しかし現在には通じないようです。そこでPRは専ら秋の紅葉と談らい山つまり談山神社の「歴史的いわれ」が宣伝されます。作者はそのことを詳しく語っておられます。しかし歴史をテーマにビデオを作ることは難しいのです。見る人の歴史常識がどのあたりにあるかを見極めてシナリオと構成をしなければならないからです。談山神社の裏山から飛鳥の地が見渡せるいいカットがありましたが簡単な地図を入れることでみんなの理解が深まるのではないかでしょうか。いろいろ工夫して理解度

を高めるよう努力しましょう。歴史組頑張れ！

10. 神島への旅 ハイビジョン

西井 学さん 8分

三島由紀夫の小説「潮騒」の舞台となつた伊勢湾の神島を訪ねられたときの作品だそうです。小説の主人公、新治と初江に老若2組の男女をそろえ作者が撮影監督された作品というクレジットが最初にでてきます。有名な小説ですが筆者はあらすじも忘れてしまったので再読してみました。それでやっと、ところどころにでてくる映画のカットや背景の神島の映像が何を意味するか、少しあわかったような気がしました。それにしても新治、初江の一代目、二代目の意味、何が始まるのか期待してしまいます。冗談で一緒にいった人たちの名をクレジットに出すのなら、ナレーションで少し説明してほしかったと思います。同行した人たちだけで解りあえる作品から第三者にも理解できるようお願いしたいと思いました。なお西井さんの映像、ハイビジョンにかかわらずSDで映写してみました。お詫び申しあげます。

11. 初夏のいろどり ハイビジョン

奥 宏さん 5分45秒

長居公園の5月の最新映像です。初夏というと花々のいろどりが本当にきれいです。それをハイビジョンで撮影されるとほんと目が覚めるようでした。今回は機材の操作ミスからハイビジョンにかかわらずSDで、はじめ映写されました。（西井さんは気づかなかった）何かおかしいぞというので切り替えたらすごくきれい。図らずもSDとハイビジョンの比較映像を目のあたりに体感しました。いよいよノーマル派はこれから肩身が狭くなりそうです。長居公園のように自然の遠景が入る作品を見ると筆者などのSD派はいらいらが大きくなります。

12. チエンマイの寺巡り3 (HDV)

森田光春さん 8分40秒

「チエンマイの寺巡り」も（3）ともなると少しづつ様子がわかってきたかなと思いますがまだまだ全体像を把握するにいたっていません。タイの人たちが全員僧侶の体験を積み敬虔な仏教徒であることは理解

できます。しかしその体験がない私達は、寺めぐりしても観光の目でしか見ていないようです。外見けばけはい色の寺院の建物も、中に日本と同じ坐像の仏さまを見ると何かほっとなります。そうゆう意味でクータオ寺院のモノトーンが逆に心に残りました。あまりわからないままこれまでタイのあちこちを見せていただいたのですが、それでも積み重ねによってタイへの親密感だけは、ましたように思います。日・タイ親善ビデオになります。これからもお願ひします。

13. 初不動 (HDV)

江村一郎さん 5分45秒

「滝谷の不動尊」ってなつかしい名です。筆者は商売をしていたので父が「滝谷不動尊」と書いた「お札」を店に貼っていた記憶があります。日本三不動の一つとか、今でも28日の縁日には200軒の露店が出るほど賑わうとか。江村さんは「初不動の夜の大法会」の様子をHC1の手持ちでうまく撮られています。HC1は夜に弱いとかいろいろ言われますが江村さんの画像を見て、結構撮れていると思いました。こうゆう撮り方は筆者も好きなので大いに参考になりました。初不動の臨場感ある映像はいわゆる「江村流」なのですが、撮れそうでなかなか難しいものです。その技を盗みたいと思っています。

14. あまるベロマン号 (HDV)

前田茂夫さん 9分49秒

「特急エーデル鳥取」などの車両を使った臨時列車「あまるベロマン号」が連休の5日間だけ運行されました。前田さんは一泊して一日4回鉄橋を走るロマン号を、思う存分お撮りになりました。これはそのときの記録です、鉄道ファンでなくても前田さんの鉄道ビデオはひきつけるものがあります。ロマン号はあまるベロマン号を時速15kmでゆっくり走るので列車の階段展望車から周囲の景色を見るのもよし、鉄橋の下から列車の通過を撮るのもよしとの事だったそうです。絶好の条件を完全にこなす腕をお持ちの前田さん、結果はすばらしい作品が出来上りました。これを見て6月の撮影会の期待が大きくなります。